

**出産・育児による研究中断を経験した
若手研究者支援への取り組み**
－「特別研究員－R P D (Restart Postdoctoral
Fellowship)」の現状と推移－

平成31年3月

独立行政法人 日本学術振興会
学術情報分析センター



JSPS

学術情報分析センターの設置とその活動

日本学術振興会（学振）は本年4月に学術情報分析センターを設置しました。同センターは、学振のインスティテューショナル・リサーチ部門として、学振の諸事業に係る情報を横断的に活用し、各種事業の動向、成果等を総合的、長期的に把握・分析し、諸事業の改善・高度化に向けた調査研究を行うこととしています。また、これらの成果については広く情報発信を行うこととしています。

このレポートはその第三号として、学振の特別研究員－R P D事業に関する検討の資料として作成された情報を公表用に加工したものです。

本レポートへの御質問やセンターへの御意見・御希望等ありましたら、以下までお寄せください。

電子メール：csia*jsps.go.jp（「*」を「@」に置き換えて送信願います）、電話：03-3263-1971

「特別研究員－R P D」事業について

日本学術振興会では、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図るため特別研究員制度を実施しております。

この特別研究員制度の一環として、子育て支援や学術研究分野における男女共同参画の観点から、優れた若手研究者が、出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰できるように支援する「特別研究員-R P D」事業を平成18年度に創設し、12年が経過しました。R P Dの記号は、研究活動を再開（Restart）する博士取得後の研究者を意味しています。本書においては、当該事業を紹介するとともに、関連する諸データを取りまとめました。

【R P D概要】

○申請資格

- ・採用年度の4月1日現在、博士の学位を取得している者（申請時には見込みでも良い）。
- ・応募する年度の4月1日時点で未就学児を養育している者、又は応募する年度の4月1日から遡って過去5年以内に出産又は疾病や障害のある子を養育した者で、3ヶ月以上研究活動を中断した者。
- ・日本国籍を持つ者、又は日本に永住を許可されている外国人。

※上記要件を満たしていれば、年齢・性別は問わない。

区分	対象	採用期間	研究奨励金(月額)	研究費(年額)
DC	○大学院博士課程在学者 (DC1) 博士課程後期第1年次等 (DC2) 博士課程後期第2年次等	DC1:3年間 DC2:2年間	20万円	150万円以内
PD	○博士の学位取得者等 ○博士の学位を取得後5年未満の者 ○博士課程在学当時の所属研究機関以外を採用中の受入研究機関とする者	3年間	36.2万円	150万円以内
RPD	○博士の学位取得者等 ○出産・育児のため3ヶ月以上研究活動を中断した者 ○性別は問わない	3年間	36.2万円	150万円以内
SPD	○博士の学位取得者 ○PDのうち特に優れた者を採用 ○博士課程在学当時の所属研究機関以外を採用中の受入研究機関とする者	3年間	44.6万円	300万円以内

○対象分野

人文学・社会科学及び自然科学の全分野

(特別研究員制度における区分による対象・処遇等の違い(平成30年4月現在))

○審査方法

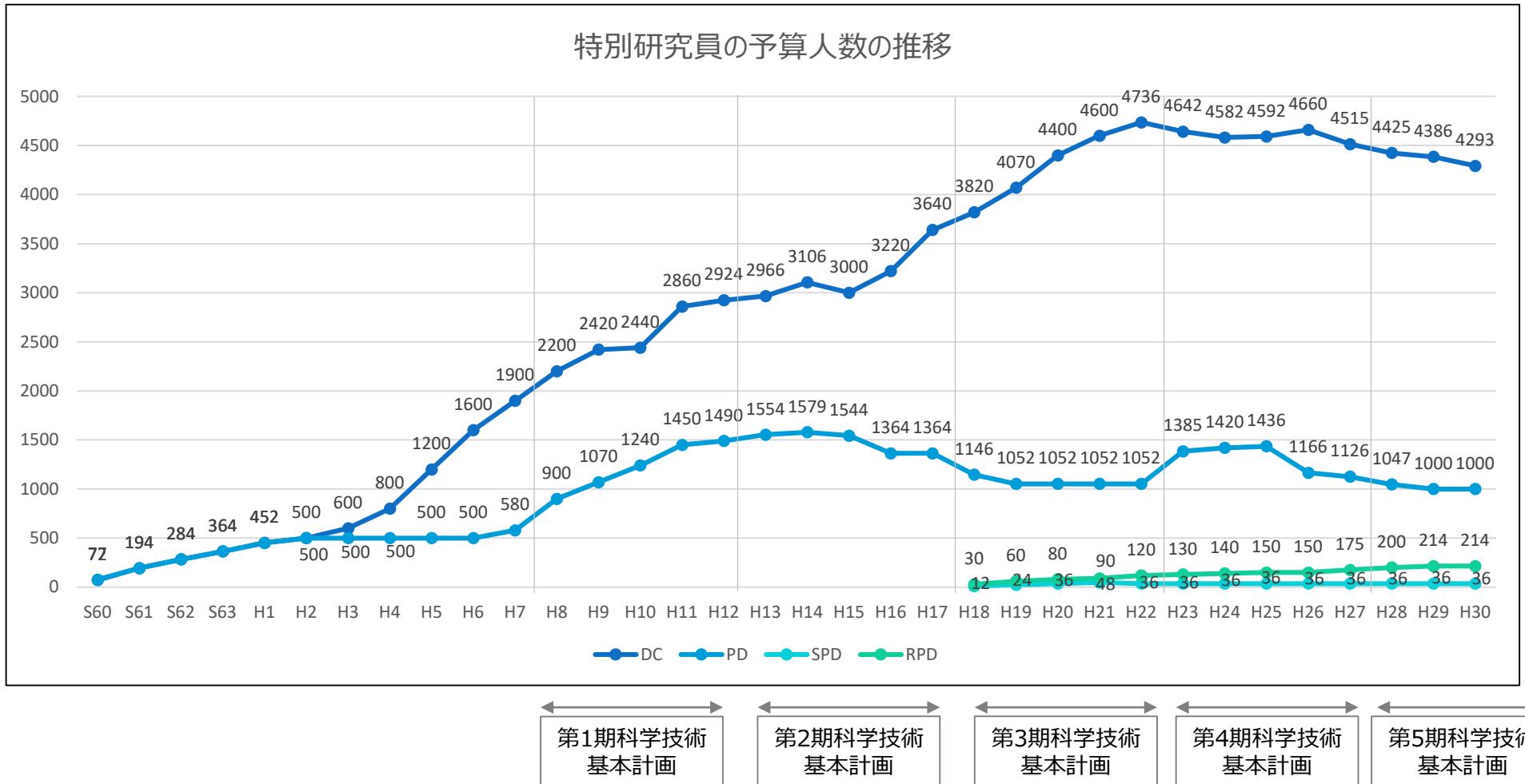
書面審査及び合議審査

※育児中であることが想定される申請者の負担軽減のため、面接審査を行わず、書類選考をもって採用内定者、補欠者を選定

○採用後の待遇等

- ・採用内定数：73名（30年度新規採用）
- ・採用期間：3年間
- ・研究奨励金：月額362,000円（予定額）
- ・研究費：科学研究費補助金（特別研究員奨励費）の応募資格が与えられ、本会科学研究費委員会等の審査を経て毎年度150万円以内の研究費が交付される。

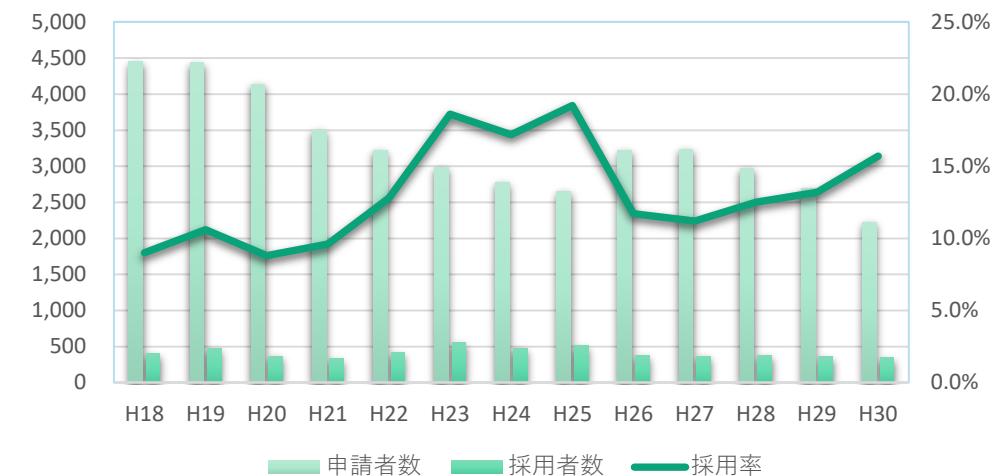
1. 特別研究員の各種人数データ推移



特別研究員－R P Dの予算人数については、平成18年度の30人からスタートしました。厳しい財政状況下でPD等の予算人数が減少する一方、R P Dの予算人数については増加傾向にあり、平成30年度予算人数にあつては、新規採用者分75人及び継続採用者分139人の計214人を確保しています。

R P Dの申請及び採用状況推移

P Dの申請及び採用状況推移



(単位：人)

(単位：人)

採用年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
申請者数	140	212	201	195	216	238	262	260	252	258	255	256	280
採用者数	32	30	38	48	43	48	51	46	54	67	72	70	73
()内は男性数	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(1)	(4)	(0)	(0)	(1)	(1)	(3)	(7)
採用率	22.9%	14.2%	18.9%	24.6%	19.9%	20.1%	19.5%	17.7%	21.4%	26.0%	28.2%	27.3%	26.1%

採用年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
申請者数	4,446	4,440	4,136	3,503	3,221	2,986	2,777	2,655	3,222	3,237	2,976	2,690	2,223
採用者数	400	471	365	336	413	554	478	510	376	364	373	355	348
()内は女性数	(95)	(119)	(84)	(75)	(106)	(122)	(121)	(133)	(93)	(89)	(95)	(88)	(81)
採用率	9.0%	10.6%	8.8%	9.6%	12.8%	18.6%	17.2%	19.2%	11.7%	11.2%	12.5%	13.2%	15.7%

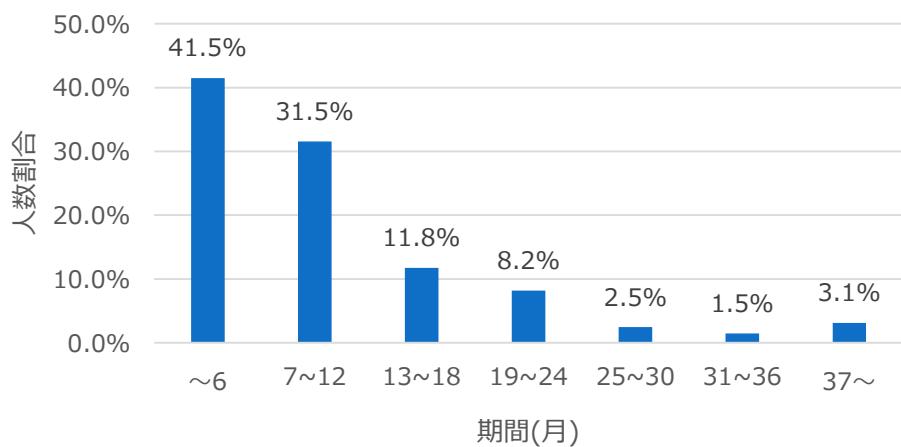
※PDの採用者数については、グラフ、表ともに、SPD採用者を含む。

特別研究員－R P Dの申請者数、採用者数、採用率については、申請者数が平成29年度までは平成24年度の262人をピークにほぼ横ばいの状況となっていました。平成30年度にあつてはそのピークを上回り280人となっています。また、採用者数及び採用率については、平成28年度の新規採用者数、採用率がそれぞれ72人、28.2%と過年度においては最高となりましたが、平成30年度については申請数の増加もあり、新規採用者数、採用率がそれぞれピークを上回り73人、26.1%となりました。

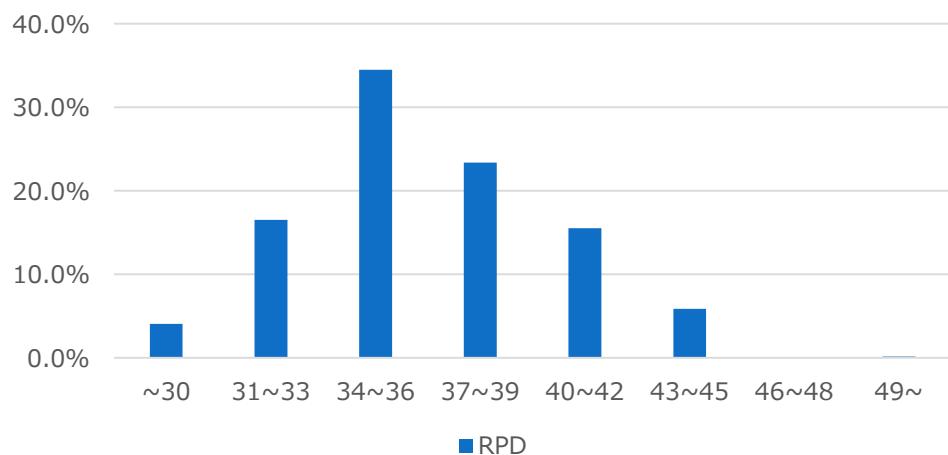
一方で、PDについては、一時的に増加した申請者数が平成28年度に再び減少に転じたことから、それに伴い採用率が近年は上昇している状況となっています。

2. RPD採用者の各種状況

① 研究中断期間の分布 (H21-30)

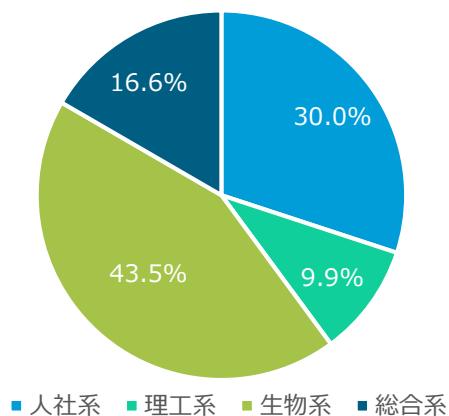


② RPD採用者の年齢分布 (H21-30)

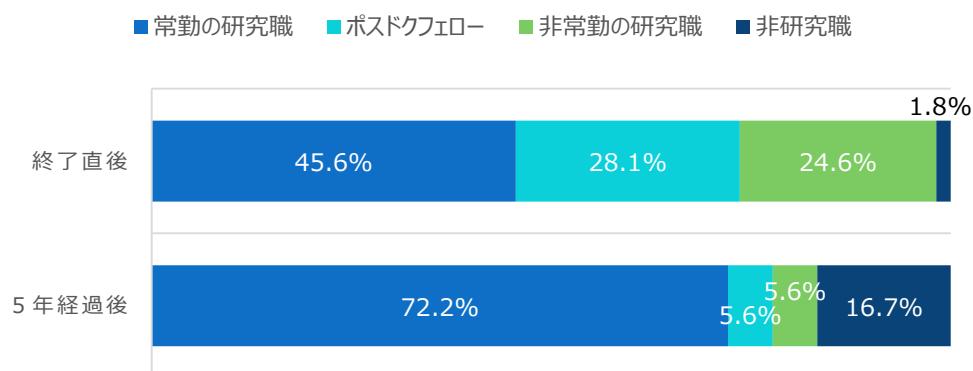


※研究中断期間はRPD申請時の数値です。

③ RPD採用者の系別割合 (H21-30)



④ RPD採用終了後の就職状況 (H29.4.1 現在)



※「総合系」にはH24までの総合・新領域系を含む。
また、H25以降の「総合人文社会」、「総合理工」、「総合生物」は、それぞれ「人社系」、「理工系」、「生物系」に計上している。

(※①～③については、括弧内の年度は分析に用いたRPDまたはPD採用者の申請データの年度を示しています。)

RPD事業は出産・育児等による研究中断期間によりギャップのある状況にある方々をサポートするため、研究中断期間があることを応募要件として採用を行っています。

①のとおりRPDはおおむね半年から一年程度の研究中断期間を経験しています（中断期間は、RPD申請時の申請者の申告によるものです。）。そして、②に示すとおりRPDの年齢分布は30代半ばから後半が中心層となっています。

③はRPD採用者の系別割合となりますが、RPD採用者では生物系が最も多く、約4割を占めています。次いで人社系が約3割を占めており、この2系統で採用者の約3/4を占めていることがわかります。そして、その後に、総合系が約16%、理工系が約10%という数値で続きます。

④は平成29年度4月1日現在までのRPD採用終了者について就職調査を行ったデータとなり、母数や雇用形態等の調査規模や項目はその他の分析に用いた申請データとは異なりますが、RPD採用終了後5年を経過すると、7割以上が常勤の研究職に就くことが出来ていることがわかります。

3. 「特別研究員－R P D」事業の制度改革等

特別研究員事業においては、年々たゆまぬ制度改革を行ってきましたが、特にR P Dに関連する事項については以下のような制度改革が行われています。

年度等	改善事項
平成18年度採用分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1申請当たりの書面審査員を3名から6名に増員 ・ 書面審査の基準、評価方法を見直し、特別研究員事業の趣旨に即した評価基準等を設定 ・ 出産・育児のための研究中断者への支援体制の整備 → R P Dの開始 →採用中断期間中に研究奨励金の半額受給を可能に
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術システム研究センターにおいて、審査結果の検証を行い、審査システムの改善や審査委員の選考に反映
平成20年度採用分	<ul style="list-style-type: none"> ・ R P Dの採用期間を2年から3年に変更
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ P D（S P D、R P D）の競争的資金等の獲得制限を緩和
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ P D、S P D、R P Dについては、特別研究費奨励費以外の一部研究種目（科研費）の応募制限を緩和
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別研究員奨励費（D Cを除く）に、間接経費を措置
平成30年度採用分	<ul style="list-style-type: none"> ・ R P Dについて面接審査を廃止し、必要な場合に追加書類選考を行うことがあると募集要項に記載

4. 特別研究員－R P D研究交流会

日本学術振興会では、毎年、特別研究員－R P D採用者を対象に、研究活動における出産・育児の課題と今後の研究展望等についての意見交換とともに、先輩研究者による体験談も交え、他分野の特別研究員－R P Dとの分野を越えた研究交流・情報交換の機会を提供することを目的として、研究交流会を開催しています。交流会では、育児中の方も積極的に参加できるように、託児室も設けています。

R P D研究交流会では、開始初回から全ての回において秋篠宮妃殿下にご臨席を賜っており、12回目となる平成30年度の交流会では、来賓の郷通子名古屋大学理事からの挨拶、特別研究員－R P D採用経験者2名からの経験談講演の後、現在特別研究員－R P Dである8名から研究発表が行われました。過去の交流会では、秋篠宮妃殿下から特別研究員－R P Dへの励ましのお言葉と、ご自身の研究や子育てのご経験について、お話いただいたこともあります。また、研究発表後の懇談会では、秋篠宮妃殿下が特別研究員－R P D一人ひとりのご歓談され、研究と出産・育児の両立に関する日頃の課題や工夫について活発な意見交換が行われました。



(研究発表)



(託児室)